令和５年度

「運営に関する計画」
（最終評価）

大阪市立常盤幼稚園

令和６年３月

様式１

大阪市立常盤幼稚園　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

○コロナ禍において「学びを止めない」ために大阪市就学前教育カリキュラムをふまえ、本園の教育課程を見直してきた。その中でも一人一人の子どもの実態に応じた保育を展開している教育の発信が、保護者の安心安全な子育てには欠かせないと感じている。引き続き、教育内容の発信を工夫し、一人一人の子どもの育ちを保護者と共に喜び合い、保護者が子育ての喜びを味わえるようにすることが、課題である。

○子どもたちは体を動かして遊ぶことが好きであるが、しなやかな体の使い方やバランスをとるなどに課題が見られる。そのため、日々の遊びの中で十分に体を動かす気持ちよさを体験し、多様な動きを経験する中で調整力を育て、自ら体を動かそうとする意欲を高めていくようにする。また、基本的な生活習慣の形成において、生活に必要な習慣を身につけ、次第に見通しをもって行動できるようにすることが課題である。幼稚園は、それらを保護者と共に進めていくことが大切であると考える。

○コロナ禍が続く中、感染症対策や危機管理意識を継続しながら、教育内容の在り方を工夫するためには、教職員が知識や知恵を出し合って協働していく必要がある。全教職員の意識の共有や共通理解を深め、具体的で細やかな取り組みをチームで行い、子どもの豊かな育ちにつなげていくことが重要であると考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和７年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を９０％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和７年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を９０％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和７年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を９０％以上にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっているに対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○令和５年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

３　本年度の自己評価結果の総括

本年度の幼稚園運営全体を通し、目標達成に向けた３つの視点において成果が見られた。子ども一人一人の実態をしっかりと把握し、豊かな経験を学びへとつなげていくことが個の育ちや教育成果に結びつき、幼稚園が家庭・地域とともに成長を喜び合うことができた。項目や重点の設定は子どもや園の実態に即し適切であった。次年度は、今年度の課題を受け更に指導の在り方を工夫すると共に、全教職員の共通理解を深め、具体的できめ細やかな教育実践をチームで行い、子どもの豊かな育ちへとつなげたい。

様式２

大阪市立常盤幼稚園　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【②豊かな心の育成】 子どもが主体的に身近な環境に関わる中で、自分の思いや考えを表現したり、伝えたりすることに喜びや楽しさを感じられるようにする。 指標 ・学期に２回以上、実践記録をとり教職員で検討会を実施し、学び合う機会を設ける。 ・毎日、登降園時に保護者へ子どもの心の育ちを伝える。	A
取組内容②【⑤健やかな体の育成】 生涯にわたって健康で安全な生活を送るために保護者と共に園生活を通して、基本的な生活習慣を身につけ、一人一人の発達に応じたしなやかな心と体を育成する。 指標 ・月に１回、子どもの発達段階や実態に応じた保健指導を行う。 ・月に１回、保健指導の内容で『がんばりひょう』を実施するとともに、その提出率を８５％以上にする。 ・毎月１回、徒歩で登降園する日を設定する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

【取組内容】について

取組内容①

・一学期は新しい環境に慣れて安心して過ごしてほしいと願い、興味に即した遊びが経験できるよう場を整えた。自然環境に興味をもつ子どもが多く、ダンゴムシやアオムシを捕まえてクラスで飼育するなどの遊びで関心を広げ、思いや考えを伝えていた。
また、５歳児はなかよし池の掃除やおまつりごっこを通して人に喜んでもらったり、や

りとりしたりする楽しさを味わった。

・二学期には、運動会の取組の中で友達の頑張っている姿を認めたり、友達と気持ちを合わせて取り組んだりすることを楽しいと感じ、さらに主体的に環境や周りの人にかかわろうとする姿が見られた。運動会で存分に体を動かしお客さんからたくさんの拍手をいただいた経験は大きな自信となった。その後の『こども博覧会』に向けてのかいたり作ったりする遊びでは、いきいきと思いを表現したり、友達が困っているところを手伝ったりするなどの意欲的にかかわる姿が見られた。

・子どもが身近な環境に関わる中で、自分の思いや考えを表現したり、伝えたりすることに喜びや楽しさを感じる姿とはどのような姿か、またその要因について各担任が実践記録をとり検討会を行うなど教師間で学びあった。10月には園内研究会に大阪市教育センターの教育指導員を招いて研究討議で指導を仰いだことが、教師の資質向上につながった。

・三学期は、劇遊びの中で一人一人が思いを自分なりの方法で表現したり、友達と表現を認め合ったりしながら主体的に人と関わって遊ぶことの楽しさを存分に味わえるよう援助を工夫した。各学年の劇遊びの題材は、3歳児は芋ほりの経験から、4歳児は、1 学期からのさまざまな生き物の表現遊びの積み重ねから、5歳児は、考えを出し合ってお話を創作する楽しさを感じて遊びをすすめられるような内容を工夫し、どの学年も生活発表会でのびのび表現する姿を保護者に見ていただくことができた。みんなで一つの目的に気持ちを向けて取り組んだことを保護者に認められたことが更に自信へとつながり、3･4歳児は新入園児を迎える喜び、5歳児は、小学校進学に向けての期待をもっている。

取組内容②

≪保健指導・がんばりひょうについて≫

・月に１回保健指導を行うことができた。

４月	手洗い・うがい・和式トイレ（５歳児）・咀嚼（５歳児）		
５月	熱中症予防	６月	歯みがき
７月	早寝・早起き・朝ごはん	８月	安全・清潔
９月	食育・和式トイレ	１０月	咀嚼
１１月	体を動かす	１２月	健口体操
１月	姿勢	２月	排便

子どもの実態や発達段階、気候等に応じて指導内容を検討し、写真や絵本、和式トイレや顎の模型、大型歯ブラシなど、発達段階に応じた視覚物や教材、音楽や体操などを活用した保健指導を行った。様々な視覚物や教材を活用したことで、子どもが興味をもって話を聞くことができ、基本的な生活習慣が身に付きやすくなった。保健指導後は、家庭でも指導内容に取り組む『がんばりひょう』を実施し、幼稚園と家庭の両面から基本的生活習慣の定着を図った。『がんばりひょう』の保護者コメントから、子どもたちなりに保護者と一緒に取り組んでいる様子や保護者の意識が向上した様子がみられ、『がんばりひょう』の実施が基本的な生活習慣の定着につながったことが分かった。

提出率　９０．８％（２月９日現在）

『がんばりひょう』に取り組んでもらえる工夫としてごほうびシールを作成し、皆でごほうびシールを台紙に貼る活動を行った。担任と連携し、活動の中で子どもたちへ『がんばりひょう』への取組や提出を意識付けるような声かけを行ったり、保護者へも個別で声掛けをしたりした。それにより、『がんばりひょう』に取り組み、提出する家庭が増えた。

歯と口の健康について、令和４年までの継続した保健指導や保健管理、今年度の歯科受診率などにより、『第６２回全日本学校歯科保健優良校表彰』にて最高賞である『文部科学

大臣賞』を受賞することができた。令和５年度も引き続き、歯と口の健康についての取組を行っている。よくかんで食べる習慣を身に付けるため、５歳児は毎日の昼食の前に、当番の子どもが「かみかみ　もぐもぐ　よくかんで食べましょう！」などと咀嚼についての声掛けを行ったり、保護者へも咀嚼の重要性を伝えるため、咀嚼チェックガムを用いた『咀嚼力チェック』を５歳児親子で実施したりした。さらに、新型コロナウイルス感染症流行後中止していた『親子歯みがき指導』を再開し、３・４歳児親子に保護者講話と歯垢染色を実施した。また、３歳児は、園での弁当に慣れ始めた６月から１月までの昼食後に、養護教諭や担任が顎模型を使用しながら、一斉にうがい指導・歯みがき指導を行った。これらの歯と口の健康についての指導・啓発により、子どもたちは自分一人でも主体的に、丁寧にうがいや歯みがきをしたり、よくかんで食べていたりする様子が見られ、保護者の歯と口の健康に関する意識も向上した。

≪徒歩登降園について≫
　徒歩降園日を『親子で歩くデー』と名付け、実施した。
＜実施日＞　５月２４日(水)　６月２７日(火)　　９月２６日(火)　１１月２８日（火）
　　１２月１５日(金)　１月１９日(金)　　２月２９日(木)
徒歩で登降園することで、体力が向上することや交通ルールを再確認できることなどを伝えた。また、子どもたちが自ら意識することができるよう、『親子で歩くデー』のたびに子どもたちへ、保護者と手をつないで安全にしっかり歩くことの大切さを伝えた。区外など遠くから自転車で登降園している家庭も多いが、幼稚園周辺のチェックポイントまでは自転車を押して歩くよう啓発し、どの家庭でも参加できるよう工夫した。チェックポイントには教職員が立ち、降園の様子を確認し、それを教職員間で共通理解するとともに、後日保護者へフィードバックした。回数を重ねるごとに、普段は自転車で登降園している家庭でも、『親子で歩くデー』では手をつなぎしっかり歩いている様子が見られるようになった。
　月に１回実施する予定であったが、７月は天候により熱中症への危険が心配されたため見送り、１０月は行事との兼ね合いで延期した。１１月以降は毎月実施できている。

　これらの取組により、令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合は１００％であった。

次年度への改善点

①次年度も、子どもが主体的に身近な環境に関わる中で自分の思いや考えを表現したり、伝えたりする姿について、さまざまな方法で教師間で共有しながら学びを深めたい。
②保健指導や『がんばりひょう』について、次年度の子どもや環境の状態に合わせて、子どもや保護者が積極的に取り組むことができるような内容・方法を検討する。

様式２

大阪市立常盤幼稚園　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】 大阪市就学前教育カリキュラムを参考に教育課程を見直し、身近な自然に興味関心をもち、遊びに取り入れようとする豊かな感性を育む。 指標　・年２回以上、親子栽培、クラス栽培を計画し、野菜を育てる機会をつくる。 ・月１回、園内の自然環境を見直し、保育に活かせるよう再構成を行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

【取組内容】について

取組内容①

・春、タマネギやスナップエンドウの収穫時には、５歳児が持ち帰りの分け方を自分たちで考えた。収穫したタマネギの数や大きさを話し合い、皆が納得する持ち帰り方ができた。野菜の収穫を通して、数量の感覚や伝え合いの力が養われ、主体的に活動する姿に繋がった。

・阿倍野地域で育てられ阿倍野区役所からいただいた花苗は、子どもと一緒に花壇やプランターに植え、水やりや雑草抜きなどの世話も楽しんでいる。遊びの中で自然への親しみや関心を高めている。

・親子栽培を年間２回実施している。５月にはミニトマト、ピーマン、ナス、オクラ、エダマメ、１１月にはチューリップの球根を植えた。１人１つの鉢があることで愛着をもち、保護者と一緒に水やりや追肥などの世話をしている。夏野菜の栽培では、収穫した野菜を家庭で調理したり弁当に入れてもらうことで、苦手な野菜が食べられたという子どももいた。冬の栽培については、日当たりや個体差の関係で野菜の育ちに個人差が出るなどの課題があったことから、今年度はチューリップに変更した。球根に興味をもったり多様な種類の色があることを喜んだりし、進級進学の頃に花が咲くことに期待を高めている。

・夏季休業中に園内の樹木の名札を修復したり新しく付けたりした。教師はそれぞれの樹木の名前や性質について調べるきっかけとなり、また子どもが名札の字を書いたことでより樹木が身近な存在となり、大切にしようとする気持ちに繋がった。

・園内での四季折々の野菜や果物の収穫をしている。子どもの目に触れにくい場所にも樹木があるため園内の自然物を玄関や階段に飾り、触れられるようにしている。また、園長が誕生会の際に毎月の季節の自然についての話をプレゼントしている。会が終わると早速園庭に自然物を探しに行くなど、興味をもったり遊びに取り入れたりする姿が見られる。

【誕生会で紹介した自然物】

4月	カラスノエンドウとスナップエンドウ		
5月	ビワ	6月	アジサイ
7月	夏野菜	8月	サルスベリ
9月	サツマイモのつる	10月	ザクロ
11月	ミカン	12月	キンカン
1月	ハボタン	2月	梅
3月	チューリップ		

・３・４歳児で、来年度に収穫できる野菜の苗（ミズナ・タマネギ)、種（スナップエンドウ）をクラスで植えた。スナップエンドウは、一人一つずつのポットに種をまくことで、愛着をもって成長を楽しみにしていた。自ら水やりをしたり、芽が出てくるのを心待ちにしたりし、友達とポットを覗いている姿も見られた。発芽し、ツルが伸びてくると畑に植え替え、支柱を立てるなど、世話の過程も子どもと一緒に行うことで、生長と収穫への期待を感じている。ミズナの苗は成長が早く２月に収穫できたため、修了前の５歳児が収穫することにした。個数でなく「量」での分け方を考える機会になった。園生活最後の収穫物ということで、子どもたちが食べられるように保護者もさまざまな調理法を工夫してくださり、食育にもつながった。

これらの取組により、令和５年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合は９７％であった。

次年度への改善点

① 引き続き、収穫時期や苗植え、種まき時期のタイミングを逃さず、これまでの子ども達の自然とのふれあいを通した経験を生かし、子ども達が身近な自然に興味がもてるよう取り組んでいく。
園内環境を整え、遊びやすく、自然に興味をもち、草花、野菜の成長が喜び合えるように取り組んでいきたい。

様式２

大阪市立常盤幼稚園　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○令和５年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【⑦人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 全教職員が全園児を指導する体制で一人一人の子どもに関わり、実態やそれぞれの教師の支援、援助の方法を情報交換しながら、細やかなチーム保育を実践する。 指標　・学期に１回以上、実践事例について検討し、教職員の資質向上を図る。 ・学期に２回以上、外部講師を招いて支援の仕方について学びを深める。	A
取組内容②【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 異校種との交流や地域との連携を深め、身近な人に親しみながら地域への関心を高めたり、小学校生活への円滑な接続につなげたりする。 指標　学期に２回以上、さまざまな方法で地域や学校園・保育所等と交流をする。	A
取組内容③【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 一人一人の子どもの実態を丁寧に把握し、保護者と共に子どもの成長を喜び合えるように、発信方法を工夫し、幼稚園教育への理解を促す。 指標　・月に３回以上、写真掲示やホームページ等で教育活動を発信する。 ・月に１回、保護者の直接体験の場として保育室からの降園を行う。 ・年に８回以上、行事ごとにアンケートを実施し、分析する。 ・年に３回以上、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や大阪市就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の視点から子どもの育ちを発信する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○令和５年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

【取組内容】について

取組内容①

・支援を要する子どもへのかかわりについて、日々教職員間でその日の保育を振り返りながら話し合った。また、教育委員会や外部の講師を１、２学期に計５回招き特別支援について学んだ。

・これらの学びを生かし、３学期には大阪市立幼稚園教諭に向けた特別支援教育実践報告を『みんなの中で自分らしく育つ』というテーマで行った。報告をまとめる過程で何度も教師間で話し合ったり指導主事等から助言をいただいたりし、教師の指導力と資質の向上にもつながった。

取組内容②

・異校種との連携では、今年度も文の里中学校の体育大会に５歳児が参加した。雨天プログラムのため、応援のみとなったが、迫力あるリレーやハードル走を間近で見た感動が２学期の自園の運動会にもつながった。他にも三明保育園との交流、常盤小学校での幼小合同避難訓練、大阪市立デザイン教育研究所との交流、工芸高校訪問など、園の立地のよさを活かしそれぞれにねらいをもって活動を行うことができた。５歳児が進学に向け、常盤小・苗代小１年生から招待され出かけたり三明保育園を再度招いたりして期待を高める経験ができた。いずれの活動にも事前事後の打ち合わせや振り返りがあり、教諭間の連携が深まっている。地域の方とのふれあいでは、常盤公園のおそうじデーや地域の方と遊ぶ会で地域の方の優しさにふれて安心してかかわることで、自分たちが大切にされている存在であると感じ、交流を楽しみにする姿がある。

・近隣散歩や小中学校の交流等、近隣に出かける際には区役所の地域見守り隊の方に付き添いを依頼し、その都度交通安全指導を合わせて行うことで、タイムリーな指導になっている。１１月の交通安全指導には“あべのん”も来園し、子どもたちにとって区役所の方々が身近な存在となっている。また今年度初めて区役所の音楽体感事業として園内でアンサンブルコンサートを開催していただき、保護者とともに園内で生演奏にふれ感動体験を共有する機会をもつことができた。

・さまざまな交流活動において、子どもたちが主体的に準備したり期待をもって活動したりできるよう教師が見通しをもって計画を立てている。かかわりを楽しみ、満足感を味わうことで、地域の一員であること、温かく見守られていることを実感し感謝する姿につながっている。

取組内容③

・園生活の様子を外部の方にも知っていただくため、またさまざまなお知らせを広く周知するためにＨＰを活用している。月に２回以上必ず更新している。

・今年度は大阪市ＰＴＡだよりに３度ＰＴＡの取組紹介が掲載された。保護者も本園の活動をアピールしたいとの思いをもってくださっており、外部への発信につながった。

・月に一回、月末に保育室での降園を行い、ふれあい遊びをしたり、歌や遊びを見てもらったりしたことで、保護者の方が直接子どもの姿をみる機会をつくった。その際、１か月の子どもの様子や保育のねらいなども担任から話し、幼稚園と家庭との連携を深めている。

・保育参観、プール参観、運動会、子ども博覧会、生活発表会、保育参加でアンケートを行った。アンケートの回収率は毎回８５％越えており、子どもの成長に対する感動や園への感謝を書いてくださる方が多く、教師のモチベーションにもつながっている。問題提起や改善点については全教職員で共有し、すぐに対応し、次回に生かせるようにしている。

・学期の終わりには、クラスの遊びから一部を取り上げ、写真を使って子どもの育ちを発信している。教育的意図をもった働きかけや、子どもの育ちを遊びの中で具体的に示すことで、遊びの中での学びなど保護者への幼児教育の発信につながっている。

これらの取組により、令和５年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合は１００％であった。

次年度への改善点
①多様な子どもの姿をありのまま受容し、その子らしく集団の中で育っていくことができる手立てを今後も探っていく。 ②次年度も、交流活動のねらいを明確にし、子どもの豊かな経験につながるよう連携してすすめていく。 ③さまざまな外部への発信方法を工夫し、本園のよさをアピールしていく。